

令和4年宇治田原町議会活性化特別委員会

令和4年9月29日

午前11時06分開議

議 事 日 程

日程第1 中学生議会について

日程第2 ハートウォーミング自治体議会Webサミットについて

日程第3 その他

1. 出席委員

委員長	9番	馬場	哉	委員
副委員長	7番	藤本	英樹	委員
	1番	浅田	晃弘	委員
	2番	原田	周一	委員
	3番	宇佐美	まり	委員
	4番	山本	精	委員
	5番	山内	実貴子	委員
	6番	上野	雅央	委員
	8番	森山	高広	委員
	10番	榎木	憲法	委員
	11番	今西	利行	委員
	12番	谷口	整	委員

1. 欠席委員 なし

1. 職務のため出席した事務局職員は次のとおりである。

事務局 長	矢野	里志	君
庶務 係 長	重富	康宏	君

---

開 会 午前11時06分

○委員長（馬場 哉） 皆さんこんにちは。

本会議に引き続き、ご苦労さまでございます。

本日は、議会活性化特別委員会を招集いたしましたところ、委員の皆様にはご出席をいただき誠にありがとうございます。

本日は、中学生議会、ハートウォーミング自治体議会Webサミットについて協議いたしましたと思います。

本日の委員会において、不適切な発言等がありました場合には、委員長において精査を行うことといたします。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（馬場 哉） ありがとうございます。

ただいまの出席委員数は12名でございます。定足数に達しておりますので、直ちに本日の議会活性化特別委員会を開きます。

会議は、お手元に配付しております会議日程及び資料等により進めさせていただきます。

それでは、これより議事に入ります。

日程第1、中学生議会について。

この中学生議会については去る6月13日の委員会では今年度の秋頃を予定ということに説明をさせていただいております。その後、中学校との協議の上、11月5日土曜日で調整をさせていただき、決定をしたところでございます。

中身については以前から説明しておるものと変わりございませんけれども、まず2枚目の中学生議会開催要項の表面ですね、それと、最後の3枚目に中学生に配りましたチラシをつけております。

9月26日に維孝館中学校のほうへ私と藤本副委員長、事務局が出向きまして、直接3年生二クラスの生徒さんたちにチラシを持参して参加依頼を実施したところでございます。

中学生の参加につきましては10月14日金曜日に学校で締め切らせていただいて、事務局に届けていただくということになっております。

内容につきましては、以前から中学生議会、皆様に説明させていただいているとおり、中学生からの質問に対して、以前こちらのほうで決定をいたしました担当の議員がそれについて、答弁をいただくという形式で今回の中学生議会につきましても進めてまいり

たいと思います。

昨年度はコロナ禍のまん延防止等重点措置の状況により、いわゆる中学生に対しまして答弁書を提出するだけということになりましたけれども、今回は特に何も現状変わりが無いようでしたら11月5日ここに記載のとおり、中学生議会を本議場で開催をしていきたいと思っております。

ただいまの説明で何か質疑等ございましたら、ご発言をお願いいたします。今西委員。

○委員（今西利行） 今回こういう形で実施されるということについては十分、前から論議してきたことだと思うんですけども、意見というか、前もちょっと申したと思うんですけども、議員がその中学生の質問に対して答えるという形ですよ。議会があるので仕方ないといえばそれまでなんですけれども、前回のときも少し、どういったらいいか、質問に対して答えるんですけども、その辺りが議員の思っていることと答えることとか微妙に私自身は食い違ったので、非常に悩みました、はっきり言って。どういう答弁しようかということで。そこら辺のところが取組自体は私どうこう言っているんじゃないくて、その質問に対して議員が答えるということで、自分自身の意見と少し微妙に違うとか、食い違う面があって、そこら辺りの矛盾を抱えつつ、前はああいう形で答弁させていただいたんですけども、今回無理だとしても、今後、そういうことはちょっと検討課題として、上げていただけたらなというふうに思っているんですけども。

以上です。

○委員長（馬場 哉） ほかに。

ほかにございませんか。原田委員。

○委員（原田周一） 今、今西委員のほうから発言あったわけなんですけれども、それ聞いていまして、答弁で自分の意見ということで、何かおっしゃったように今聞こえたんです。その辺が答弁内容が少し違和感があるということなんですけれども、これ以前のときも話したと思うんですけども、その個人の意見で回答するものじゃない。あくまで議会としてどうなのかという回答。その上に、前にも私言うたと思うんですけども、我々には執行権というのはありませんので、ただ、今までの経験、流れからして、それで回答するという事やと思うんです。だから、個人の思想とか信条とか、そういうのは一切回答には出てこないですね。だから、当然そういうことを表面に出そうと思ったら、当然質問の回答なんかできない。できないというより、全然違う答えになってくると思う。それでは、何のための中学生議会かということになりますので、そこらはちょっと委員長のほうで、しっかりと交通整理していただく必要があんのちゃうかなという気はしま

す。

○委員長（馬場 哉） ほかにございませんか。藤本副委員長。

○副委員長（藤本英樹） 去年もこの問題、ありましたので、委員長、副委員長のほうでも今年はどうするという話をさせていただいたんですけれども、そこでやっぱり議員さんとしても自分の考えと違うことを答弁するのは違和感あるというのは、分からん話でもないのです、そこはある一定、委員長と副委員長で質問の内容を見て、答弁をしていただく議員さんを選ばせてもらいたいなと思っています、今年も。

そういう格好で整理させてもらいたいと思いますので、ご理解いただけたらと思いますので、よろしくお願いします。

○委員長（馬場 哉） 今西委員。

○委員（今西利行） 今、藤本副委員長がおっしゃっていただいたように、そこは交通整理していただいて、私これ自体反対しているわけではないので、先ほど私が言ったことについてはご配慮というか、今後していかなくちゃならないし、また、いろんな議会、中学生議会の在り方も今後の検討課題だと思うので、今後、また検討を併せてしていただけたら、有り難いなという意見です。

○委員長（馬場 哉） ほかにございませんでしょうか。

（発言する者なし）

○委員長（馬場 哉） 前回、昨年度の中学生議会のときに決めましたそれぞれの議員の役割がありますので、今年もそれに沿って、出てきた質問に対して、議員の皆さんで答弁書を作成していただくということになるかと思います。

今、藤本副委員長が申し上げましたとおり、中にはちょっと違和感があるという議員さんもおられましたら、そこは交通整理をしていきたいというふうに、基本は町議会の流れに沿って、答弁を作成していただくということですが、どうしてもということであれば、多少は整理をさせていただきたいというふうに考えております。

先ほどから申し上げておりますとおり、締切りのほうが10月14日で、開催日が11月5日ということで、間が約2週間しかございません。まず、中学生の参加状況もまだ現状分かりませんが、まず中学生の質問が出てきた場合には、皆さんできるだけ早いこと答弁書を作成していただいて、もう1問目以上の2問目、3問目の追加のアドリブの質問に関しては議長と副議長にお任せしますので、そこは議場のほうでよろしくお願ひしたいと思います。

ほかに何かこの件について、ございますでしょうか。

(発言する者なし)

○委員長（馬場 哉） ないようですので、続きまして、日程第2、ハートウォーミング自治体議会Webサミットについて、協議をいたしたいと思います。

2枚目の資料の裏面でございます。

こちらのほうも、昨年2月14日に実施したハートウォーミング自治体議会Webサミットの今年度2回目でございます。以前から委員の皆さんには説明をさせていただいているとおり、今年度も令和5年2月14日火曜日に午前10時から昨年度と同様、Webサミットという形で進めていきたいというふうに考えております。

それ以降に進めてきた内容ですけれども、6月に沖縄県南城市の議会議長様よりお電話ございまして、本年度の来年の2月14日につきましては前向きに参加のほうを検討しているという連絡がございました。ただ、9月に議員選挙があり、その結果も踏まえてですけれども、内容は南城市の議会さんのほうで引き継いで行いたいということでございます。

それから、兵庫県の市川町議会ですけれども、これにつきましても参加を依頼をしておりまして、現在、返答待ちということでございます。

開催の方法につきましては昨年度と同様にウェブ形式でズームで行うということですが、沖縄県南城市と兵庫県市川町が新たに参加される場合があると。内容につきましては、まだ昨年度とどう違うのかというところ辺はまだ決められておりませんが、以前からこの議会で皆様からご提案もありますように、できる限り一つの場所に集まれるようなサミットなんかを今後考えていったらどうかという点と、それからハートをキーワードに標榜をしている自治体の連携につきましてもこれ以上に強化していけないかなという協議内容で、2月14日ウェブの会議を開催の予定でございます。

今のハートウォーミング自治体Webサミットについて、何か質問等ございませんでしょうか。原田委員。

○委員（原田周一） これ参加予定議会、一応4つプラス市川町ということで、市川町はまだ検討ということですよ。これ見たら、ほとんど関西圏、ほか沖縄県、これいいんですけれども、東のほうとか、そういうような北のほうの自治体は1つもない。それから、一応、南城市は市で、あと皆、町ですよ。だから、その辺りが市なのか町なのか、市町両方であれば、私はもっと北のほうにもいっぱいあるんちゃうかなと。できたら、こういうことをやっていくに当たって、せっかくこういうものをやるということになれば、例えば、災害の援助協定とかそういうものに発展させていけるようなことも含めて、

ちょっと町とは違う視点で、そういうことを見越したような形のもうちょっと北のほう  
いうんですか、オンラインやから距離は関係ないですわね。だから、そういう部分でも  
っと働きかけをすればいいのかなという感じはするんですけども、どうでしょう。

○委員長（馬場 哉） 藤本副委員長。

○副委員長（藤本英樹） 今の原田委員の意見のほうなんですけれども、東のほうもかな  
り探したんですわ。ハートというのを何か売っている名称みたいなのはあるんですけれ  
ども、自治体というのはなかなか見当たらず、東のほうでは。結局、西側ばかりに  
なったんですけれども、あとは、今後、市町双方も東にあるんじゃないかという話です  
けれども、それでも市でも町でもなくて、地域的なハートというのは、何か所かあるみ  
たいですけれども、それぐらいまでしか検索はできていない状態です。

あと、災害協定の話はどうしても自治体の話ですので、あくまで議会が取っ組みをつ  
くって、それを町のほうが町なり自治体のほうがどうしはるかという話だし、そこまで  
はちょっとまだ踏み込んではいません。

（「当然我々から、どうのこうの言うことじゃないわ」と呼ぶ者あり）

○委員長（馬場 哉） ほかに。原田委員。

○委員（原田周一） 調べられたというのは、どういう調べ方されたのか、知らないです  
けれども、ハートというのは何も地形だけじゃなしに、精神的なものとかそういうもの  
を自治体が標榜しているところありますよね。優しい町とか何とかいう精神論的なね。  
だから、私が言うているハートというのはそういう意味のハートであって、何も地形が  
ハートということだけじゃないので、そういう意味ではもっとあるんじゃないかなとい  
う気はするんですね。せっかくサミットというんやから、やっぱり二、三ではちょっと言  
う割には寂しいんじゃないかなという感じがするんです。

だから、そういう意味ではもっと探したほうがいいことやと思うんですけども。

○委員長（馬場 哉） ほかに。谷口委員。

○委員（谷口 整） 今、原田委員また藤本副委員長のほうからありましたように、確か  
にハート、今のこの5つの名前が上がっている自治体は地形がハートなんですね。それ  
以外に精神的なハート、それを標榜しているハートのまちというのは恐らくあると思  
うんですよ。とりあえず、私、元々考えていましたのは、これ言い出しっぺ、私なので、  
まず、そのハートの形をしている市町が集まって、サミットなるものをやり、その後、  
これ8月10日の日はハートの日ということで、日本心臓財団がハートの日というのを  
標榜しているんやけれども、これとは別のハートの日を、また、あれって言うたもん勝

ちみたいな言葉は悪いけれども、別にどこかに届け出をして、せんなんものでもないし、たしか心臓財団に確認してもらったんですね。そうしたら、別に支障ないようなので、まず、二、三回こういうウェブでのサミットをやり、次は寄ってもらって、サミットをやる。ハートの日を制定したというのも打ち上げる。あとはそこまでが議会としての限界やと思うんですよ。

次は、それぞれがうちでしたら町にあとを引き継いでもらう、そして、今度は議会主催じゃなく、市町が集まったハートのまちサミットをやる。その中で、先ほど出ていましたように、災害の応援、これやっぱり大規模災害は近くの町の災害を受けるので、それこそ沖縄とか、極端な話、北海道とか遠いところから応援を求めることが一番大規模災害のときはいいので、だから、それをご縁にまた、災害協定も結んでいくというための議会としては一つのステップ、あとは、それぞれ自治体に任せていくと、それが究極かなという思いで、これを提案させてもらったんです。

そういうことを視野に入れて、これからもちょっとしばらくは議会のほうがイニシアチブを取って、進めていきたい。あとは町に引き継ぐという形でいきたいと思っていますけれども、その辺、ちょっと確認というか、そちらで整理してください。

○委員長（馬場 哉） ほかにございませんか。

（発言する者なし）

○委員長（馬場 哉） ないようでしたら、今、谷口委員からもご発言がありましたように、まず、今のおっしゃっていただいたとおりでございまして、まずはここに書いてある4つの市町プラス市川町は打診中ですが、今、参加を依頼中でございます。昨年度は大山崎町と神河町と2つだけでしたので、本年度開催できるようであれば、南城市も市川町も増えて、昨年度よりも少しパワーアップというか広がりがあると。

議会のできることは、谷口委員もおっしゃったとおり、現状はハートの8月10日を標榜する議会として何らかのアクションを起こすということで、それ以降につきましては原田委員さんからもお話がありましたように、何らかの自治体の連携については今後、議会側から業者のほうに投げかけて、ぜひやっていったらどうやということを議会側から提案するのも、もちろんそのとおりやと思います。

今年度、今回、沖縄県南城市とふるさと納税で、本町は軽石で困っておられる南城市に対して、ふるさと納税で行政が連携して寄附も募っているという、そういうことがありますので、そういう行政側の連携も少しずつ動きを促すように議会から働きかけをしながら、ぜひ、今年度はもう一度ウェブでやりまして、来年度はもうコロナが収まった

後、ぜひ、どこかの会場で、当然宇治田原町に来ていただくということが理想ですけども、議会が集まっていたら、その後は行政も議会もミックスしながら、行政の連携を促していくと。

あとは日本全国にハートウォーミングな施策がいっぱいあるはずなので、そういうものもぜひそのハートのサミットから日本全国に発信していけるように宇治田原町が中心になっていければなど、議会が中心になっていければなど、そういう思いで、今後もこの件については進めていったらどうかというふうに考えておりますので、皆さんのまた新たな意見と積極的なご参加、当然2月14日は議員の皆さん方には来ていただいて、ぜひ、参加をしていただきたいと、委員長、副委員長ともども考えておるところでございます。

そんなところですけども、何かほかにございますでしょうか。

(発言する者なし)

○委員長(馬場 哉) ないようでしたら、日程第3、その他について、何かこの際ございませんでしょうか。

(発言する者なし)

○委員長(馬場 哉) ちょっと今事務局と副委員長と相談させていただいたんですが、中学生の参加が決まり次第、質問内容も一旦は事務局と検討させていただいて、もう一度議会活性化特別委員会を10月の中旬に開催をさせていただきたいと思っておりますので、皆さんご協力のほうをよろしくお願ひしたいと思ひます。

ほかにございますでしょうか。

(発言する者なし)

○委員長(馬場 哉) ないようでございますので、これで議会活性化特別委員会を終わりたいと思ひます。

本日はご苦勞さまでした。

ありがとうございました。

閉 会 午前11時32分

宇治田原町議会委員会条例第26条の規定によりここに署名する。

議会活性化特別委員会委員長                      馬                      場                      哉